

科目名	担当教員	授業方法	授業形態	履修者数	履修学年
英語演習1b	渡辺 雅仁先生	演習	遠隔：リアルタイム	14名	2年以上

【授業内容】

インターネット上の掲示板を利用し、海外の英語学習者と意見交換をしながら、ライティングおよびプレゼンテーションによる英語発信力を強化します。あわせて、異文化理解に必要な英語の文献を輪読形式で読みます。内容を伴ったコミュニケーション力を高めるために、海外の英語学習者とインターネット上の掲示板を利用して、自ら発信し、相手の反応に応答し、交渉を通じて、ライティングとプレゼンテーションの両面から高度な議論を行うスキルを獲得します。

【授業の実施方法】

英語での異文化交流を目的に海外の英語教育機関と連携し、仮想交流 (virtual exchange) を行っています。今年度は、従来のインターネット上の掲示板での作文投稿に加え、オンラインリアルタイムでのワークショップ・交流と、より仮想性を高めた非実在の人物との交流を行いました。

【授業準備にあたってのポイント・工夫した点】

2000年度から毎年継続しているインターネット上の掲示板を用いたさまざまな国からの英語学習者間の異文化交流プロジェクトを、コロナ禍で進んだ遠隔授業関連ツールを活用し、交流がより深まるよう授業をデザインしました。

今回は、その中でも、対面によらない仮想交流 (virtual exchange) を、3つの形態で行いました。

交流1:非同期 (asynchronous) 書きことば (written language) による交流

従来のインターネット上の掲示板へのメッセージ投稿による交流

交流2:同期 (synchronous) 話しことば (spoken language) によるオンライン交流

i. Zoom を用いて、国内の NGO に依頼し、受講生を通じてオンラインワークショップを2回開催しました。

ii. Zoom を用いて、交流1に参加した各国からの参加学生、教員とリアルタイムで英語によるセッションを開催しました。

交流3: 非同期・書きことばを用いた存命していない人物との交流

英文テキスト学習として、テキストに登場する人物に対し、1) 自身との関わり、2) 地域・国との関わり、3) 世界との関わりの3つの視点から、同世代の若者として英文で手紙を書いたり、パワーポイントを用いてスライド発表をしたりしました。

また、オンラインリアルタイム授業に学生が参加しやすくなる工夫として、さまざまな形態の交流を用意することで、この場合はカメラオンで討論する、この場合はカメラオフで講義を聞く、この場合は自分の発表を行う、といった形態に合わせて学生の授業に参加する形態を変えました。カメラオンのまま、オフのままといった画一的な形態ではなく、複数の参加形態を用意しました。現在は、カメラオフが原則となっていますが、必要に応じてカメラオンとできるような、セキュリティ強化が可能になるとよいと思います。

【従来の対面授業との違い～学習効果の観点から】

遠隔授業開始時はとにかく対面授業に近い形を遠隔授業で実践することに腐心していましたが、両者は明確に異なるものであると割り切り、それぞれの長所、短所を理解しつつ、長所を伸ばし、短所を補完するようにしています。例えば、海外との交流のみならず、国内の団体にワークショップの企画を依頼することもより簡単になりました。遠隔授業中、学生の受講状態が確認できないのは遠隔授業の短所ですが、きちんと聞いている場合には、教員と学生の間で1対1の対話チャンネルが成立します。遠隔授業の最中や授業後にさまざまな個人的な連絡を教員ばかりではなく学生からも組織化することで、対面授業とは異なるコミュニケーションが成立します。単純なことですが、Zoomのセッションにおいてチャットを用いて、「では今から3分時間をあげますから、このことについて自身の意見をチャットにまとめてください。回答はこちらから合図があるまで送信しないでください」のように指示して、一斉に回答を送信させるとさまざまな意見をリアルタイムで把握できます。対面と同じように、遠隔で学生を呼名して答えさせるよりも効果的に反応を得ることができます。